

## 進捗状況の概要

本補助事業の全体の目的は、アクティブラーニング（以下、AL）を重視した教育体制を構築し、教員評価・指導制度で教員のこれに対応した教育力を育成することで、「社会の第一線で活躍できる科学技術者養成」という本学の使命達成を加速・実現することにある。

本補助事業は、前頁記載の4点を柱にして、未来科学部において事業を推進している。

### ①（教育枠組）PDCA サイクルの実質化による質保証枠組みの構築

- ・ディプロマ・ポリシーに学修成果として学習・教育目標を追加するとともに、それらの目標は、達成度が評価可能でわかり易いものになるように具体化・詳細化した。
- ・カリキュラムとディプロマ・ポリシーで設定された学修成果としての目標を関係づけたカリキュラムマップの形によるカリキュラム・ポリシーを設定した。
- ・ディプロマ・ポリシーで設定された、学科の4年間の学修成果としての目標の内容・水準を示す「学科ルーブリック」、各科目の達成目標に対する学生の達成度評価用の「科目ルーブリック」、作成する際に参照する「汎用ルーブリック」について、米国の標準的ルーブリックである VALUE ルーブリックを参照して作成した。また、各ルーブリック作成に利用するための「汎用ルーブリックとその利用法」マニュアルを作成し教員に配布した。なお、「科目ルーブリック」については、e-ポートフォリオシステムに試験的に内蔵し、学生が科目の達成目標に対する自己評価ができることを確認した。
- ・学生の目標到達度の直接評価及び間接評価のために、PROG、TOEIC、アチーブメントテスト（専門科目）、授業アンケート、学修行動調査、満足度調査を実施した。これらの結果、本学学生は知識等のリテラシーは他校と比して高いことが示されたが、汎用的能力であるコンピテンシーは相対的に低い結果となり、改めてALの重要性が示された。TOEICに関しては、未来科学部の平均点は340点であり、卒業時点までに最低120点程度のアップが必要であることが示された。また、学修行動調査並びに満足度調査の結果から、大学授業満足率は「ほとんど満足している」と「やや満足している」の合計が57%であった。

### ②（教育枠組）反転授業による授業外学修時間の増加

- ・4科目で反転授業用コンテンツを作成して学生に配信し反転授業を実施した。また、反転授業用コンテンツ配信と学生との連絡機能を有するe-ポートフォリオシステムを試験導入した。
- ・反転授業実施に関する報告によると、学生が履修する科目の多くで宿題が出されているため、反転学習用のビデオを自宅で観て学習する時間の確保がかなり困難な状態であり、他の科目の担当教員と一週間における自宅学習の量を適正化・平準化する必要があることが示された。

### ③（教育内容）教育目標の知識・能力を学生に効果的・効率的に修得させるAL教育手法の開発

- ・4科目で反転授業とセットにしたALを実施し、その利点と問題点をAP推進委員会で報告・検討を行った。また、ALの「振り返り」のためのe-ポートフォリオシステムを試験導入した。

### ④（教員教育力）教員教育力向上用教員評価制度の導入

- ・教育の質的・量的な評価を行う教員評価制度については、平成27年度より3年間試行した後、本格実施することとなった。平成27年度は、評価結果に基づき教員個人別指導を実施した。
- ・「よりよい授業を設計するためのインストラクショナルデザイン」と題するワークショップ型FDを実施すると共に、ALやICTの効果的な活用、ポートフォリオによる学修成果の効果的な管理と教育設計等、AP事業実施に必須な事項に関するFDも実施した。なお、これらのFDはビデオ録画を行い、学内の教育用ポータルサイトにアップロードして欠席した教員の勉強に供した。
- ・FD教材用に、3種類のAPマニュアル（教育の質保証、反転授業とAL、ルーブリック評価）を作成して教員に配布した。